



平成30年1月25日(木)第2回運営指導委員会が行われ、御指導・御助言をいただきました。



運営指導委員

上村 靖司 様	長岡技術科学大学教授
斎藤 浩之 様	新潟県地中熱利用研究会技術委員長
佐々木 彰 様	新潟原動機(株)技術センター主幹技師
阿部 淑人 様	工業技術総合研究所参事
伊藤 克佳 様	新潟造船(株)工作部船殻課長

管理運営機関

藤澤 満 様	新潟県教育庁高等学校教育課 指導第2係指導主事
--------	----------------------------

上村靖司様に進行していただき、運営指導委員から指導助言をいただきました。

斎藤 浩之 様

大変な数の取組をやっている。取組の中で土木科と関わってきた。地中熱井戸掘削工事では、最新のソニックドリルでいままで10日かかった掘削作業を1日で掘れる世界的に注目されている技術を生徒に見てもらった。見るだけではなく、手堀でも穴も掘ってもらった。生徒が自分で井戸を掘ったことに、たいしたもんだと思った。今後科を横断した取組では土木科と建築科設備の組み合わせで両方の勉強を一緒にやったほうがいい。興味・感動・問題意識がある人材は伸びる。アンケート結果もいい。興味・感動、問題意識がある生徒を育ててほしい。何に興味があったか?なんでそう思ったか?アンケートに入れてほしい。

阿部 淑人 様

自分の手を動かす。年を取るとマヒする。強い刺激がないと考えない。これを道具にして今までの技術の上に積み上げていく。ロボットを作る側と使う側 知識・技能を与えそれをどう活用していくかそういうことも大事と考える。SPHに選ばれ、厳しいことを言われる。こういう取り組みで生徒の力がついていく。世の中はロボットが生産の担い手になっていて客業生産になっている。一人一人に合わせたものをつくるのを大量生産的コストでやる。時代の変化についていく力をつけてほしい。

伊藤 克佳 様

体験させて興味を持たせていくと伸びる人材が居る。いろんな科が取り組み船も様々な職業の人が集まってやって感動している。協力し合っている。現場での体験について指導して取り組んでほしい。

佐々木 彰 様

よくやっている。先生のチームワークが生徒に伝達していくので継続してほしい。目標管理についてはあまり達成度が高いと民間では目標が低いのではないかと思われたりする。10人に一人でもいいから目が光る。何が自分に残ったか?なんでそう思ったか?自分は何をやりたいのか?考える生徒ができてほしい。

上村 靖司 様

効果があったものとそうでないものの選別。終わったら終わりでないそのプログラムを使い育てく。組織マネジメントと教員を育てる。対象学校を育てる。先生が育つ組織。生徒が育つ組織。生産性の向上イノベーション。仕事が減って効果が上がる教育の生産性。知識技能だけでなく、行動できる人を育てる。ネガティブな面も入れ、改善材料にする。